

平成23年度マダイ幼魚資源調査結果

福岡県水産海洋技術センター 研究部

◎調査の概要

・調査日

宗像地区、新宮奈多地区・・・平成23年7月12日(火)

唐津湾地区・・・・・・・・・・平成23年7月14日(木)

・調査内容

一艘ごち網により一網あたりで採取されるマダイ等について、分布状況および体長測定を実施しました。

◎調査結果

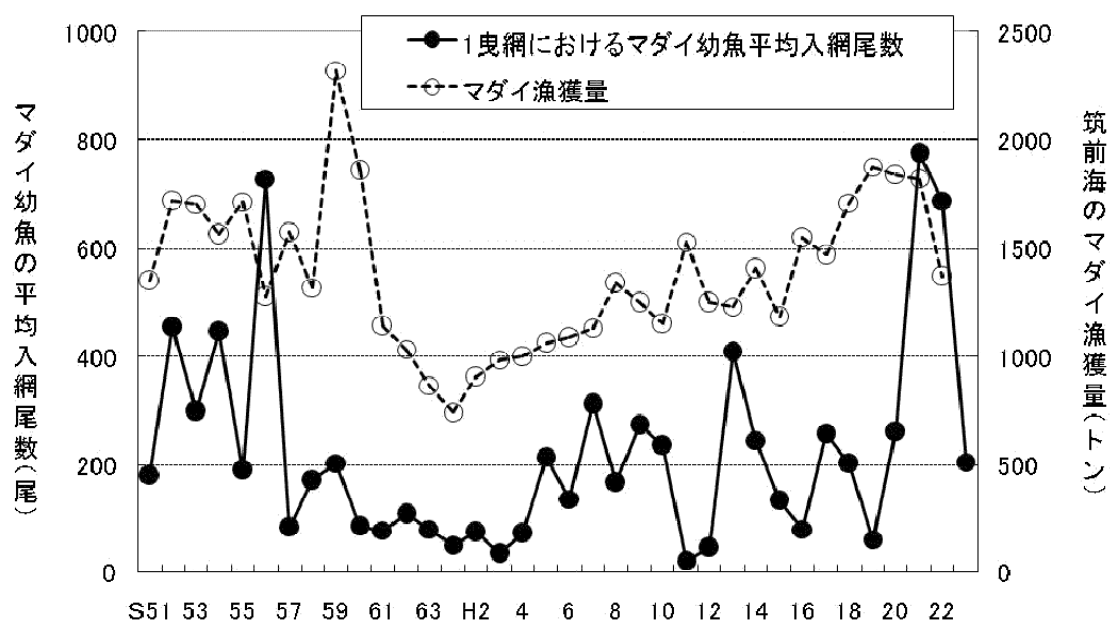
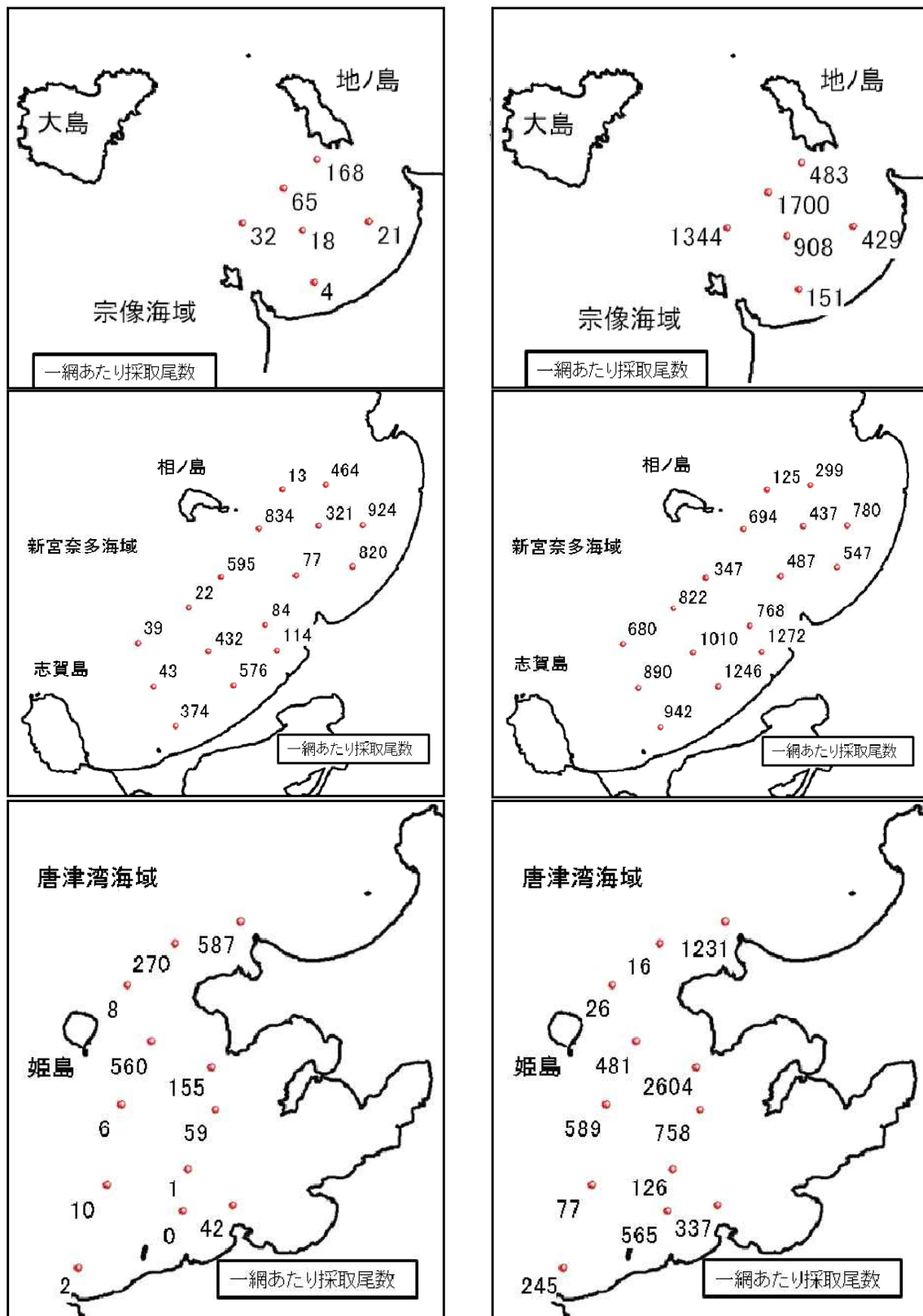


図1 1曳網におけるマダイ幼魚の平均入網尾数とマダイ漁獲量(トン)の推移



平成23年度

平成22年度

図2 各海域の平成23年度と22年度のマダイ幼魚の分布状況

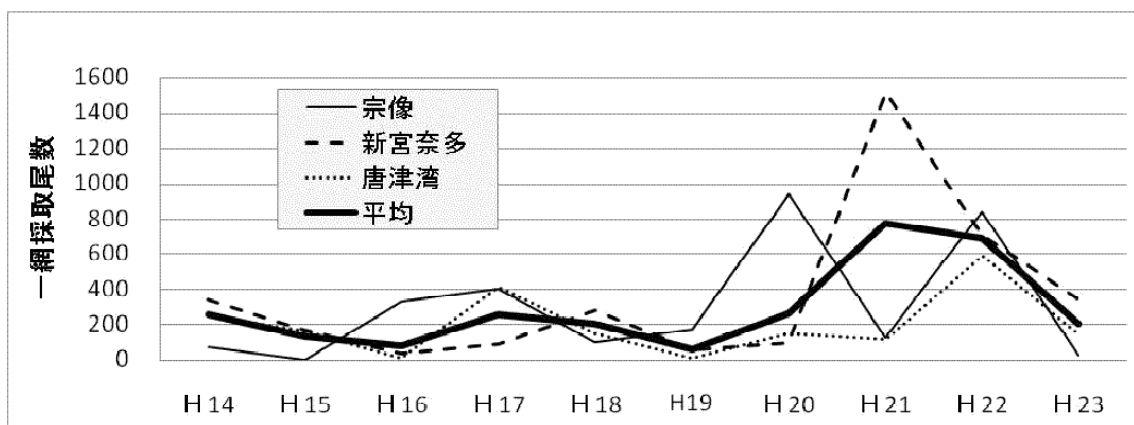


図3 過去10年間の海域別マダイ幼魚採取数の変化

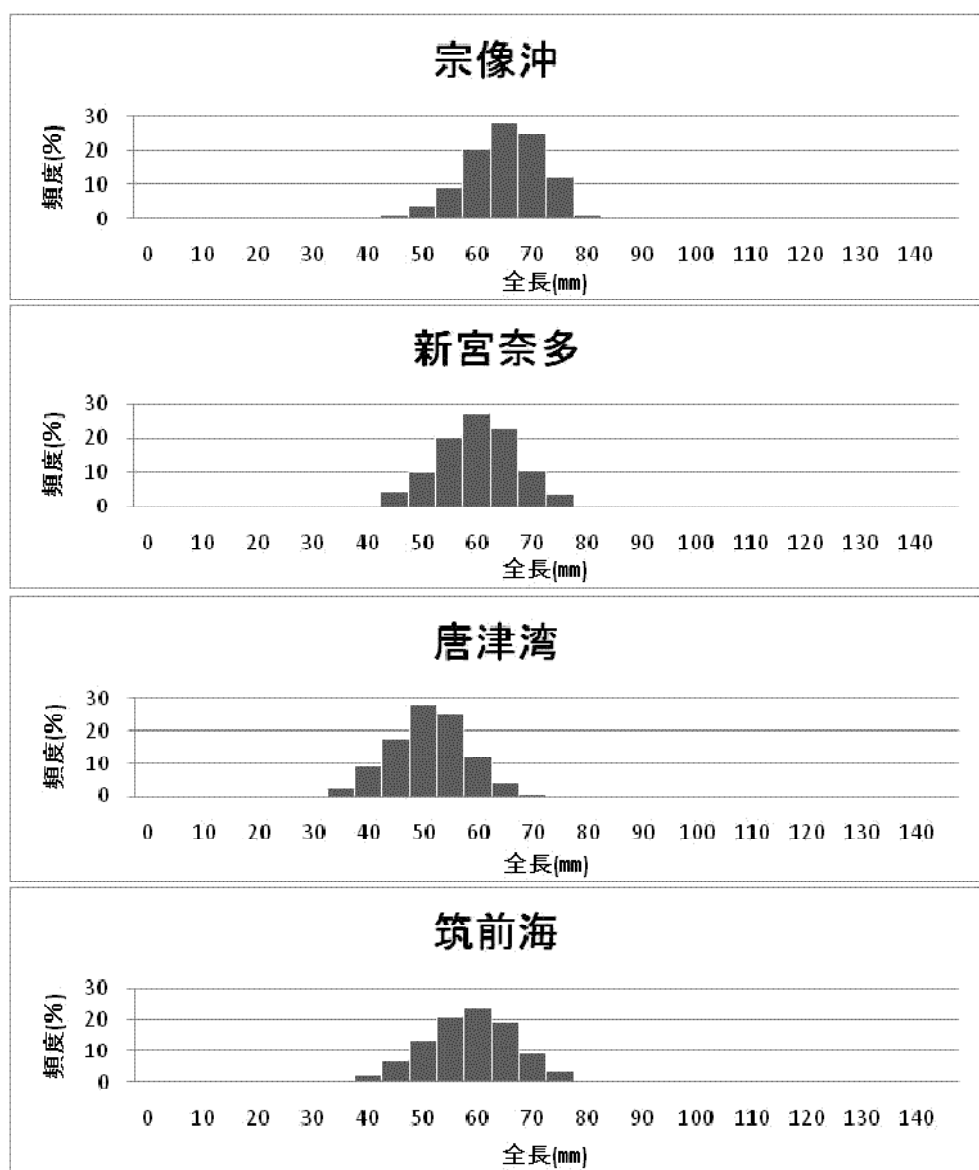


図4 各海域のマダイ幼魚全長の比較

- いずれの海域でもマダイ幼魚の採れる量は大きく減っています。特に宗像地区、唐津湾内では減り方が大きく、昨年の10分の1以下です。
- 一方で新宮奈多地区、唐津湾口では一網で500尾以上のマダイ幼魚が採取される点もあり、比較的多く生息しています。
- 過去10年の平均値と比べると今年のマダイ幼魚の量は、宗像地区は非常に少なく、唐津湾はやや少なく、新宮奈多は平年並みとなります。
- ただし、マダイ幼魚が特に多かった平成20年から22年を除いた7年間の平均と比べると平成23年度のマダイ幼魚は唐津湾ではやや多く、新宮奈多では2倍以上となります。
- マダイ幼魚の大きさは唐津湾、新宮奈多、宗像沖の順に大きくなっており、筑前海全体での平均は61mmでした。過去10年間の平均は66mmであり、今年のマダイ幼魚はやや小さい傾向にあります。
- 平成21年度、22年度とマダイ幼魚が特に多かったことから、今年度のマダイ漁獲量は1歳魚、2歳魚を中心に比較的多いと推測されます。